

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號三第 卷二第

## 論說

●在外正貨處分ニ就テ

法學博士 小川郷太郎

●穀物定期取引論

助教授 河田 嗣郎

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二完)

講 師 米田庄太郎

## 研究

●職工ノ災害扶助制度(工場法第十五條ノ施行)

法學博士 戸田 海市

●家中工業ニ就テ

同志社大學教授 瀧本 誠一

●本邦出生率増加ノ原因(二完)

講 師 高田 保馬

## 雜錄

●經濟雜語(二)

法學博士 田 島 錦 治

●南北米經濟關係ト日支經濟關係(戦後經濟問題)

法學博士 神 戸 正 雄

●歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素

講 師 米 田 庄 太 郎

●職工扶助令ニ就テ

助教授 山 本 美 越 乃

●英國ノ食料品ト物價

助教授 河 田 嗣 郎

●獨逸ノ市統計所小觀

講 師 財 部 靜 治

●まるさす生誕百五十年記念會記事

講 師 本 庄 榮 治 郎

## 英國ノ食料品ト物價

助教授 河田 嗣 郎

英國ニ於テ國民食料品ノ供給ガ國內ノ生産ノミヲ以テハ頗ル不足スルノ事實ハ人ノ好ク知ル所デアルガ(本誌第一卷第二、四號拙稿『英吉利ノ農政問題』參照)。開戦以來海上ノ危險ト船舶ノ不足トハ、甚ダ海外ヨリノ食料品輸入ヲ困難ナラシメ、殊ニ獨逸ノ潛航艇ニ依ル英近海封鎖宣言ノ行ハレテヨリハ、此ノ食料問題ニ對スル英國民ノ神經ハ夥シク刺激セラレ、當局ニ於テモ憂慮ノ末終ニ之ニ關スル特別ノ調査委員會ヲ組織スルニ至ツタ。

該委員會ハ戰爭ガ一九一六年ノ收穫期ヲ超ヘテ繼續スルモノトシテ、扱テ英國内ノ農産物ノ生産力ヲ維持シ若シ出來得可クンバ之ヲ増加セシムル立法上其他ノ方法如何ヲ攻究セムガ爲メニ設ケラレタルモノデアツテ、みるな一卿ヲ委員長トシ、審議ノ結果國內ノ小麥生産ヲ獎勵セムガ爲メニハ、次ノ二條件ノ下ニ於テ小麥價格ハ一九一六—二〇年間ハ「クオーター」ニ就キ四五志ニ維持セラレザル可ラザル旨ヲ建議シタ。二條件トハ

(一) 農生産者ハ其ノ耕地ヲ一九一三年十月現在ノ面積ニ比シ少クトモ其五分ノ一タケ擴大スベキコト。若クハ

(二) 農生産者ノ經營ノ下ニアル草地及ビ牧場ノ總面積ノ少クトモ五分一ハ之ヲ小麥作地ト爲ス可キコト。

此ノ建議ハ農務院ノ採用スル所トハナラナカツタガ、又以テ食料問題ニ關スル這間ノ消息ヲ窺フ可キ一端ト爲スニハ足リル<sup>(1)</sup>仍テ今平時ニ於ケル英國ノ食料品不足額即チ海

外ヨリノ輸入額凡ソ幾何ナリヤト見ルニ、一九一三年ニ於テ左表ノ如キ數字ヲ示シテ居ル<sup>(2)</sup>

小麥	ハインドレッドウエイト 一〇五八七、二〇〇	馬鈴薯	ハインドレッドウエイト 九四七、三六六
大麥	三、四四九、三六八	菽豆	一、八五三、四六六
燕麥	六、二六二、六六五	ペーヨン及ハム	五七二、八八五
玉蜀黍	四、五〇九、九五五	牛肉	九、〇〇六、九一〇
小麥粉類	二、九七八、二五五	總牛肉	六、九七三、七七一
豌豆	一、九七八、二五五	羊肉	五、五三〇、五三〇

然ルニ此ノ輸入ハ開戦以來其ノ影響ヲ受ケテ多少トモニ減少セザルヲ得ナカツタガ、然シ小麥ヲ除クノ外ハ、人ノ想像スルホド其ノ減少ハ甚シカラズ、或ハ却テ軍用等ノ爲ニ其額ヲ増シタモノモ擲クナイ。試ニ其ノ二三ニ就テ比較ヲ示セバ、一九一四年ノ開戦前七ケ月ト一九一五年ノ同期間トノ輸入額比較左ノ如キモノガアル<sup>(3)</sup>

小麥	一九一四年 ハインドレッドウエイト 五、八三三、三三〇	一九一五年 ハインドレッドウエイト 五、一六四、九〇〇
小麥ミール及粉	六、〇三三、〇九六	六、七三三、三三一
菽豆、豌豆及玉蜀黍	一、五八九、二八七	四、二二九、〇〇〇

然ルニ扱テ翻テ食料品ノ價格ハト見レバ、其間著シキ騰貴ヲ爲シテ居ルノデアツテ、一昨年十

1) The Times Weekly Edition, Sept. 3, 1915.  
2) The Economist, Sept. 18, 1915, p. 441  
3) ditto

月二四二三三片デアツタモノガ昨年春ニハ六  
 二志迄騰リ、是ハ一昨年々ノ三二志三片ト云フ  
 低價ニ比スレバ夥シキ騰貴デアル。然シ此ノ騰  
 貴ノ勢ハ昨年内ニ於テ又漸次ニ緩和サレ、昨年  
 九月ハ下ツテ四二志五片トナリ、一昨年同時期  
 ト略ボ相似タルモノトナツタ。

試ニ左ニすたちすと誌 index number ニ依リ主  
 要食料品ノ價格騰貴ノ状態ヲ他ノ二三種品ト比  
 較シテ表示スル。

植物性	動物性	砂糖類	礦産物	纖維品	雜品
食料品	食料品	種類			
一八七三年	108	103	108	101	108
一八八一七年平均	76	75	75	71	81
一八七〇九年平均	61	60	60	55	66
一九〇一年平均	65	62	61	55	66
一九一四年六月	66.5	67.5	5.8	6.7	6.3
一九一五年五月	101.1	100.5	10.0	10.6	10.5
一九一五年六月	101.0	107.4	10.4	10.6	10.6
一九一五年七月	105.5	110.0	10.3	10.6	10.7
一九一五年八月	105.6	111.8	10.4	10.6	10.7
一九一五年九月	101.1	113.5	10.3	10.6	10.6

割六厘ト云フ著シキ割合ヲ示シテ居ル。然ルニ  
 他方食料品以外ノ原料品ニ就テ見レバ、其ノ騰  
 貴歩合ハ二割七分ニ過ギナイノデアル。  
 尙ホ此ノ比較ヲ一層明瞭ニスル爲メニ、左ニ食  
 料品ト他ノ原料品トヲ區別シテ、各其ノ騰貴ノ  
 有様ヲ比照シテ示スコトトスル。

食料品	原料品	食料品	原料品
一八七三年	107	104	104
一八七〇八年平均	66	66	66
一八七〇九年平均	66	66	66
一九〇一年平均	75	75	75
一九〇六年七月	60.0	60.6	60.6
一九〇七年五月	65.5	66.9	66.9
一九〇九年二月	70.8	70.8	70.8
一九一四年六月	75.8	75.7	75.7

右等示ス所ニ依テ吾人ハ英國戰時食料品ノ問題  
 ガ可也重要ナ意義ヲ有スル所以ヲ窺フコトガ出  
 來ルト思フ。(右示スすたちすと誌ノ指數ハ一八  
 六六―七七年平均ヲ百ニ立テタモノデアル。(4)  
 尙ホ最後ニ比照ニ便スル爲メ四十五種貨物ノ一  
 八七三年以來ノすたちすと誌指數(一八六七―

4) The Statist, Oct. 9, 1915 p. 58.

七七年平均一〇〇ヲ左表ニ示ス。

年 指 數	月 指 數
一八七三年.....	一八九六年七月.....
一八七八—八七年.....	一九〇九年二月.....
一八九〇—九九年.....	一九一四年六月.....
一九〇五—一九一四年.....	一九一四年七月.....
一八八〇年.....	一九一四年八月.....
一八九六年.....	一九一四年九月.....
一九〇五年.....	一九一四年十月.....
一九〇六年.....	一九一四年十一月.....
一九〇七年.....	一九一四年十二月.....
一九〇八年.....	一九一五年一月.....
一九〇九年.....	一九一五年二月.....
一九一〇年.....	一九一五年三月.....
一九一一年.....	一九一五年四月.....
一九一二年.....	一九一五年五月.....
一九一三年.....	一九一五年六月七月.....
一九一四年.....	一九一五年八月.....
	一九一五年九月.....

右表示ス所ト前ノ表ニテ示サレタル所トヲ併セテ是ヲ觀レバ、食料品騰貴ノ歩合ハ一般物價騰貴ノ歩合ニ比シ、唯ダ僅カニ大ナルノミデ、食料品騰貴ノ歩合ガ獨リ著大ナリトハ云ヒ得ラレ

ザルコトモ、之ヲ知り得ル次第デアル。何レニシテモ英國戰時ノ食料問題ハ可也重大ナ問題デハアルガ、然シ甚ダ切迫セル危急ノ問題ヲバ爲シテ居ナイコトヲ知ラナケレバナラス。